舞踏交流・海外ダンサーシリーズ Vol.3 Butoh Exchange International Dancers Series

アジア海域ダンスプログラム

アジアのダンス

舞踏交流・海外ダンサーシリーズも今年で3回目を迎えます。これまでは、ヨーロッパからダンサーを招き、舞踏での交流を行ってきました。今年は、アジア地域のダンスを紹介することとなりました。

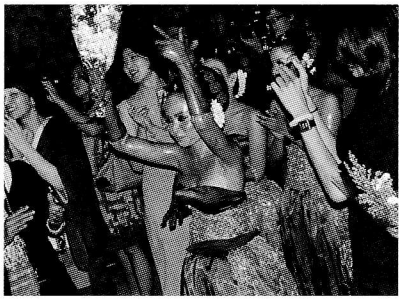
アート・センターでは、この6月に台湾・原住民の歌と踊りの公演「海への記憶」を共催しました。本シリーズでは、さらにアジア海域を南に下って、インドネシアのダンス・グループの魅力あふれる公演を実施します。

伝統と現代を融合

古典舞踊をベースにした現代舞踊、そしてインドネシアの古典舞踊、さらに伝統的な仮面舞踊が加わります。高度なテクニックから生まれる精妙華麗な舞。ユーモアとフォークロアをベースに感動的な踊り。現代インドネシアの舞踊の魅力を満喫できるプログラム。

Indonesian Dance Group

参加ダンサーたちは、ジョグ・ジャカルタを拠点として、国内では「ジョグジャ国際パフォーミング・アーツフェスティバル」をはじめ、数々のフェスティバルを主催し参加しています。また、日本の舞踏や古典舞踊をジョグジャに招いてダンス・フェスティバルを実施し、またしばしば来日して、数々のアジア・トライや越後妻有アート・トリエンナーレ(2009)にも出演するなど、日本の舞踏関係者との交流もさかんに行っています。



舞踏レクチャー&シンポジウム

アジアから舞踏へ

台湾とオーストラリアから芸術・舞踏研究者を招いて、土方巽の舞踏とアジア地域での舞踏の展開をめぐってのレクチャーを実施します。[参加費無料]

ドウェイン・ローラー　Dwayne Lawler

動かされるべきか、動かさざるべきか:土方巽の暗黒舞踏をもちいた演技トレーニング方法

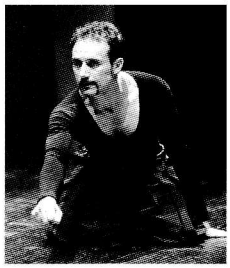
"To be Moved or not to be Moved: Considering Hijikata Tatsumi's Ankoku Butoh as an Acting Training Method"

本レクチャーでは、土方巽の暗黒舞踏における訓練方法と、その方法がどのように俳優の演技トレーニングに役立つかを考察する。

This lecture will examine the training methods of Hijikata Tatsumi's Ankoku Butoh and how these techniques can contribute to actor training.

ドウェイン・ローラー

オーストラリア出身の俳優で、現在グリフィス大学の博士課程に在籍。日本では、映画『バンクーバーの朝日』に出演し、NHK Worldのナレーターとしても活躍。また、新国立劇場で『マクベス』を演出・主演し、さらにニューヨークのリアント劇場にて一人芝居『東京ヴァンパイア』を上演している。東京フリンジフェスティバルの共同創設者およびディレクターであり、ライジング・サン・シアターのアーティスティック・ディレクターも務める。2015年に日本に長期滞在、土方巽アーカイヴで調査。舞踏研究とともに自身でも舞踏を実践。空手や殺陣など日本の武道に精通し、空手は有段者(3段)。



日時:2016年9月14日(水)午後7時

会場:慶應義塾大学大学院棟323教室

龔卓軍(ゴン・ジョジュン)

裏アジアの他者身体:無垢舞踏劇場と黄蝶南天舞踏団

土方巽から始まり、「日本人の身体」、さらに言えば、裏日本の「他者身体」を強調することは、舞踏の一つの主要な方法となった。土方巽の「東北」は裏日本の他者として、特異な舞踏身体を発展させ、舞踏史において埋滅されない原点にもなった。

台湾にとって、1986年は土方巽死去の標を意味するだけではなく、同時に、裏アジアの「他者身体」を探る白虎社が初めて台湾に来たその年でした。これは、台湾での一つの舞踏による事件だった。この事件のロジックにより、それに影響された力や残されたエネルギーラインに沿って、無垢舞踏劇場と黄蝶南天舞踏団の舞踏のモチーフを整理して提示する。つまり、「裏台湾人の他者身体から裏アジアの他者身体へ」という舞踏の道である。

龔卓軍

1966年、嘉義(台湾)生まれ。1998年、台湾国立大学哲学部の博士課程を修了。博士論文は「Dialectics between Body and Imagination: Nietzsche, Husserl, Merleau-Ponty」。2007年より、国立台南芸術大学視覚芸術学院の准教授に就任。身体論・美術論・美術批評・美学などの授業を担当。また、2009年より季刊美術誌「Art Critique in Taiwan (ACT)」の編集長を務める。2010年には、ACTが全国出版大賞の2010年度優秀賞を受賞。翻訳の分野でも精力的に活躍し高い評価を得ている、G. バシュラール、M. メルロ=ポンティ、C.G. ユングの中国語(繁体字)翻訳者でもある。研究活動とともに、キュレーターとしても活動。2013年には、台北のEslite Galleryにて「Are We Working Too Much?」を企画し、本展覧会に関連する書籍2冊を同時に出版している。

日本の現代の芸術に関心を寄せ、日本との文化交流を盛んに行っている。舞踏にも強い関心をもって、台湾とのダンスの交流を促進。たびたび来日し、土方巽の舞踏を調査・研究し、台湾の雑誌等で紹介している。

日時:2016年9月15日(木)午後7時

会場:慶應義塾大学大学院棟312教室

お問合せ
慶應義塾大学アート・センター(森下隆)
東京都港区三田2-15-45　〒108-8345
TEL:03-5427-1621　FAX:03-5427-1620
Email:moris@art-c.keio.ac.jp
090-8514-6443(森下)
090-9380-6101(石本)